

No.	科目	細目	時間	内容	講師要件 (資格取得後、 実務経験5年以上) ※資格証等の写しを添付
① 講義・演習					
1	職務の理解	職務の理解	2	1. 多様なサービスの理解 ○介護保険サービス(居宅)、○介護保険外サービス 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 ○居宅の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談等) ○生活援助中心型の訪問介護で行う業務の範囲(歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを含む)	社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 介護支援専門員 看護師又は准看護師 保健師 社会福祉施設の長 行政職員 教員 その他当該科目にふさわしい資格・経歴を有する者 (以下「その他」という。)
2	介護における 尊厳の保持・ 自立支援	介護における 尊厳の保持・ 自立支援	6	1. 人権と尊厳を支える介護 (1)人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2)ICF ○介護分野におけるICF (3)QOL ○QOLの考え方、○生活の質 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護支援 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業 2. 自立に向けた支援 (1)自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2)介護予防 ○介護予防の考え方	社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 介護支援専門員 看護師又は准看護師 保健師 社会福祉施設の長 行政職員 教員 その他
3	介護の基本	介護の基本	4	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1)介護環境の特徴の理解 ○地域包括ケアの方向性 (2)介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム (3)介護にかかわる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者 2. 介護職の職業倫理 ○専門職の倫理の意義、○介護の倫理(介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等)、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1)介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード ○身体介助の技術を持たない人が介助するリスク (2)事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、○情報の共有 (3)感染対策 ○感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)、○「感染」に対する正しい知識 4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策	社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 介護支援専門員(但し、3.及び4.を除く。) 看護師又は准看護師 保健師 社会福祉施設の長 教員 その他

4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	3	<p>1. 介護保険制度 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定</p> <p>2. 医療との連携とリハビリテーション ○訪問看護</p> <p>3. 障害福祉制度およびその他制度 (1) 障害福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF(国際生活機能分類) (2) 障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業</p>	社会福祉士 介護福祉士 介護支援専門員(但し、3.を除く。) 行政職員 社会福祉施設の長 教員 その他
5	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション技術	6	<p>1. 介護におけるコミュニケーション (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、○ヒヤリハット報告書、○5W1H (2) 報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場(利用者と頻りに接触する介護者に求められる観察眼、○ケアカンファレンスの重要性)</p>	社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士 臨床心理士 介護職員実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 介護支援専門員 看護師又は准看護師 保健師 教員 その他
6	老化と認知症の理解	老化と認知症の理解	9	<p>1. 老化に伴うところとからだの変化の特徴 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面的に出る、うつ病性仮性認知症)、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>3. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点(できることに着目する)</p> <p>4. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬</p> <p>5. 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状(BPSD)、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア</p> <p>6. 家族への支援 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイトケア)</p>	医師 看護師又は准看護師 保健師 教員 その他 3～6のみ 認知症介護指導者 社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士 社会福祉施設の長 ※社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士及び社会福祉施設の長については、医学に係る部分を除く。

7	障害の理解	障害の理解	3	<p>1. 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2) 障害福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ○統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害 3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減</p>	<p>医師 看護師又は准看護師 保健師 社会福祉士 介護福祉士 精神保健福祉士 社会福祉施設の長 教員 その他</p> <p>※社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士及び社会福祉施設の長については、医学に係る部分を除く。</p>
---	-------	-------	---	--	--

8-7	8-8	8-9	8-10	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 生活支援技術の学習 生活支援技術演習 </p>	<p style="text-align: center;">食事に関連した ところとからだの しくみと自立に 向けた介護</p>	<p>食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備(時間・場所等)、○食事に関わる福祉用具の定義、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防</p>	<p>介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 看護師又は准看護師 保健師 管理栄養士又は栄養士 教員 その他</p>
					<p style="text-align: center;">睡眠に関連した ところとからだの しくみと自立に 向けた介護</p>	<p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備(温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室)、○安楽な姿勢・褥瘡予防</p>	<p>介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 看護師又は准看護師 保健師 教員 その他</p>
					<p style="text-align: center;">死にゆく人に 関連したところと からだのしくみと 終末期介護</p>	<p>終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死)、○臨終が近づいたときの兆候</p>	<p>介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 看護師又は准看護師 保健師 医師 教員 その他</p>
					<p style="text-align: center;">介護過程の 基礎的理解</p>	<p>○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ</p>	<p>社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 社会福祉施設の長 看護師又は准看護師 保健師 教員 その他</p>
					22		

実 習

No.	科目	細目	時間	内容	実習指導者要件 ※実習施設等に勤務する者であること ※実務経験年数は問わない
9	実習	移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	2	移動・移乗に関連した実習	社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 社会福祉施設の長 看護師又は准看護師 保健師

② 講 義 ・ 演 習

No.	科目	細目	時間	内容	講師要件 (資格取得後、実務経験5年以上) ※資格証等の写しを添付
10	振り返り	振り返り	2	1. 振り返り ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(OF F-JT、OJT)を紹介	社会福祉士 介護福祉士 実務者研修修了者 介護職員基礎研修課程修了者 訪問介護員1級課程修了者 介護支援専門員 社会福祉施設の長 看護師又は准看護師 保健師 教員 その他

講義・演習 計

57

実習 計

2

研修時間 合計

59

【内訳】「講義・演習」:57時間、「実習」:2時間